

もう一人、長崎市の友人に井

原東洋一さんがいる。市議会議員であったが、昨年勇退されたそうである。1936(昭和11)年3月生まれの80歳である。老いとは、譲ることである。「東洋一は世界一」といわれた時代に生まれた。

東洋一さんは、原爆の恐ろしさで悪かさが地球の果てまで伝わるように、毎月9日午前11時2分、長崎市の平和公園にある「長崎の鐘」を、平和を願う被

爆者の人たちが鳴らす。この鐘は被爆者や勤労学徒の遺族の寄付金で建立された。わたしも付き合いは舞台劇「長崎の鐘」の長崎公演がきっかけではなかったか。2人で奄美大島に遊びに行ったり、我が家に泊まってもらったりの付き合いになった。

でも政治の話はまったくしない。「軍艦島をテーマに本を書きたい」と話すと、軍艦島へ渡る準備をしてくれたが、嵐で海が荒れていて渡れなかった。いまは軍艦島もすっかり観光地になり、本にする必要もなくなつた。題名は「要求せず」である。

犯人のグループが逮捕される。犯人のグループは「この人たちには悪くない」とかばう。犯人のグループと警官隊の4、5人は軍艦島の同級生であった。こんな内容だった。軍艦島の過去がクローズアップされるという話である。松浦市のお盆は

である。東洋一さんは母の力さんが48歳と遅くなってから生まれた子どもだったため、周りからは「日暮らし子」と呼ばれたらしい。「日暮らし子」とは、夜更けになって生まれた子。遅れて生まれた子の意味らしい。東洋一さんは兄さんとは七つ違いで生まれている。

核なき世願う友人

長崎市の夜は銅座で飲む。酒房「あまみ」で飲んでからである。この女将さんがわたしと同級生であると知ってからは、長崎に滞在する夜は頻繁に通う。酒はもちろん、果糖焼酎である。ロックでぐいぐいと飲む。

長崎市のお盆の日に、名土の子が多い幼稚園の園児をバスジャックした犯人のグループが、精霊船で軍艦島へ渡る。幼稚園児は軍艦島で畑を耕したり、魚を釣ったりの生活をする。「なにを要求するのか」の警察の問いに、犯人は「要求せず」と答

新盆の各家がわらでちっちゃな精霊船を作り、キュウリやナスを詰めて海へ流す。その精霊船が闇の海のかなたへ消えていく風景は「精霊流し」で書いた。

「わざわいかとおときことか知らねども われは心を野晒しにする」(与謝野晶子)

東洋一さんもそうである。ここに

松浦市出身)

爆竹や花火、町から港へ向かう巨大な精霊船の群れ。壮観

である。東洋一さんは母の力さんが48歳と遅くなってから生まれた子どもだったため、周りからは「日暮らし子」と呼ばれたらしい。「日暮らし子」とは、夜更けになって生まれた子。遅れて生まれた子の意味らしい。東洋一さんは兄さんとは七つ違いで生まれている。